





宇都宮義真撮影



## 一、目が見える

サナモア治療院を開業してい  
る五味さんと一緒に元気よく入っ  
た。急に片目が見えなくなつて  
眼科にかかつたら、内科だと言  
われ内科で色々な検査を受けた  
が、快復は難しいと言われたの  
です。でも諦められずに懇意な  
五味さんに相談し、サナモアを  
照射したら、三日目頃から段々  
視力が戻り、十日目には床の間  
の額の字が見えるようになつた  
のです。こんなに効くとは思つ  
ていなかつたので、本当に良い  
体験をさせて貰いました。製薬  
会社に勤めている息子もサナモ  
ア治療院をすることに賛成な  
で、人助けのため大いに働いて  
見たいと思っています」と話

されました。川村さん  
そう言えば、最近、満州で憲  
兵隊長をしている小暮さんの奥  
さんから頂いた手紙に、ヂステ  
ンパーで失明した軍用犬の目が  
三週間のサナモア照射で見える  
ようになつたと言う知らせがあ  
りました。まさに奇蹟のようで  
す。

手術だけでも大金をはたき、奥  
さんは開腹手術の後が悪く後悔  
しています。しかしサナモアを  
使うようになってからは、医者  
との縁も前ほどではなくなつた  
ようです。御主人は、「全く通  
らなかつた鼻が通るようになつ  
た。カラシを食べても咳込まな  
い」と鼻を片方ずつ押さえて  
人に自慢しています。このほど  
別府温泉に新築した別荘が落成  
し、「別荘にもサナモアを置い  
て知人の病気を治してやりたい」  
と張り切っています。

## 三、その晩から

白金台町で写真材料商を営む  
川村さんの四歳のお嬢さんが百  
日咳にかかり、注射を毎日した  
のに咳はひどくなり、遂に昼も  
夜もひつきりなしに咳込むよう  
になりました。川村さんは医者  
から「これからもっとひどくな  
る」と言われてサナモアを思  
い出し、親として少しでも咳を  
軽くしてやりたいと思つて照射

## サナモア通信

### 宇都宮 義真

## 四、旧友の持病

研究所の近くに住む那須さん  
御夫妻は病気の間屋のような方  
でした。御主人は耳鼻咽喉科の  
研究室で耳鼻咽喉科の医師でした。

郷里の大分で弁護士会の会長  
をしている旧友の豊田君から、

「実は会議で上京したが、今夜  
の汽車で帰るので、それまで会  
えないか」と突然電話があり  
ました。同君とは二十年來の交  
友があり、短時間でしたが大い  
に旧交を温めることができまし  
た。なお同君から永年悩んでい  
る持病について相談があり、サ  
ナモアで治療を試みることにな  
りましたが、旧友として一日も  
早く全快して益々活躍されんこ  
とを期待しています。

## 六、満支より

満支は日本本土と比べると日  
照に恵まれず、季候も余り良く  
ないので、絶えず健康上の不安  
がありますが、サナモアがあ  
るなどにか心丈夫です。田さん  
は、「サナモアがこれほど効果のあるものとは思いも  
なかつたが、段々研究を重ね  
うちに、どんな病気でも不思議  
に治るので、大なる確信を得ま  
した」と色々な病気の多数の  
治験例を報告して下さいました。  
同じく青島の所さんは治療所拡  
張の用向で上京されましたが、  
日本人の住むところ必ずサナモ  
アありと言つて日も遠くないと思  
っています。

よし組の中橋さん、彦根の堀部  
時計店の堀部さんなどはその一  
例ですが、これらの国民の健  
康に寄与すること頗る大なるも  
のがあると思います。

## 讃光譜

「くつみがき」

## 五、事業家の経営

これまでの光線治療院は、ど  
ちらかと言えば小規模で始め  
る人が多かったようですが、最  
近の傾向は本格的に経営に乗り  
出す事業家が増えてきました。  
健康帯の元祖で発売元の川副さ  
ん、小森電球口金製作所の小森  
さん、電気工事業の株式会社み  
をしています。

「光と熱」

昭和14年6月1日発行

二本榎本町通信[1]

昭和14年7月1日発行

二本榎本町通信[2]

を要約した。

(二本榎本町通信は研究所が東  
京都芝区二本榎本町にあったこと  
に由来するが、サナモア通信と改  
めました)。







（五ページからつづく）  
それとは逆に、症状は味方であり、自分で直そうとする生体反応であるから、有効に利用したほうが良いと考え、かぜをひいたら、解熱剤でなく、発熱させるような薬剤を飲ませます。現段階では、科学でまだ十分な証明はされていませんが、経験的に効果が実証されているため、「代替医療」の代表となっています。そのための療法は、経験的には効用が認められているものの、科学的には証明されておらず非科学的なものばかりで、共通することは、「自然治癒力」の賦活を目指しているということです。

においても、次々に、「代替医療研究センター」が開設され、現在では、約20校で研究や教育が行われているのです。残念なことに、日本ではまだその段階に到達しておらず、一部の先進的な人々を除いて、医療は西洋医学が行うものと信じているのが実状です。これは、本邦の保険制度にも起因しますが、詐欺まがいの民間療法と眞の意味での「代替医療」の区別が一般の方には難しく、不安感を募らせていることも一因ではないかと思ひます。

### これから医療「統合医学」

また、一部の欧米諸国では、すでに、現代西洋医学と「代替医療」のそれぞれの長所を合わせた「統合医学」という概念が生まれています。「統合医学」は、単に西洋医学と「代替医療」を寄せ集めただけではありません。それは、それぞれの長所を研究し、その中から、従来の西洋医学でもなく、「代替医療」でもない、新しいスタイルの医学として位置付けられています。現在の医療社会では、多くの患者が最初に西洋医学の病院を受診し、そこで医師に見放されるか、あるいは満足な治療効果を得られなかつた患者のみが、救いを求めて代替療法家を受診するケースがほとんどです。しかし、「統合医学」という概念が浸透した医療社会では、最初から患者が、代替療法家を

受診するケースもあるのではな  
いでしょうか。繰り返しますが、  
私は決して西洋医学を否定して  
いるのではなく、まず、医師が  
自分たちの医学・医療に固執す  
るのではなく、世の中には様々な  
治療法が存在し、非科学的な  
療法でも、十分な治療効果が得  
られる場合もあるということを  
認識してほしいのです。そして、  
その上で、それぞれの療法の長  
所を、最大限に病気の治療に活  
用することができたら、きっと  
輝かしい未来の医療が開け  
ると思います。

天地創造の昔から、眞の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩惠を与えていきます。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけではなく、目に見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙・普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。

サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会  
医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。  
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒  
153-0001  
東京都目黒区目黒4-6-18  
サンモア光線協会  
TEL(03)3793-1581  
(三七一二一五三二二)

(本紙の無断転用を禁止します。)

サナモア光線協会  
趣意書